

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

受験番号

この部分は、著作権の関係で
掲載できません。

受験番号

問一 線部 a～e のカタカナを漢字に直せ。

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

問二 (A) (B) を補うのに、最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 普遍的 イ 盲目的 ウ 活動的 エ 客観的 オ 理想的

A	B
---	---

問三 線部①「明確な答え」とあるが、「答え」とは何のことか。文中から二字で抜き出せ。

問四 線部②「それだけで十分です」とあるが、筆者がどのように考える理由として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア どの職業を選択したとしても、夢中になれる仕事を見つけると前向きになれるから。
イ 能力的な問題にかかわらず、目指したい職業があるだけで毎日が楽しいと感じられるから。
ウ やりたいことが見つかり、ホルモンの分泌が活発になり、心身の成長に良い影響を与えるから。
エ 一生懸命仕事をするかっこいい大人を見ることが、働くことの尊さを感じられるから。

問五 線部③「他人の目に耐えないといけない」とは、どういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 他人にかっこいいと思われるように、自制心をもって行動すること。
イ 他人からどう思われようと、最後まで自分の信念を貫くこと。
ウ 自分がどのような存在であるかを、他人の目を通して確認していくこと。
エ 自分と他人とを常に比較し、自分がどんな存在かを認識していくこと。

問六 線部④「大人はかっこよく生きて、子どもに憧れられるような存在になりたいものです」とあるが、このような大人になるために必要なことは何か。二十字以内で説明せよ。

問七 線部⑤「プロセス」を具体的に言い換えている部分を、文中から四十字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出せ。

問八 線部⑥「集いて群れず」とあるが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。
ア 成熟した大人同士の集まりでないと、お互いの「個」を高めることができないから。
イ 成熟しないまま仲間となれ合う気楽さに慣れると、「個」が育ちにくくなるから。
ウ 共に行動している他人からの影響を受けて、本来の自分の個性が損なわれてしまうから。
エ 他人を頼ることも時には必要だが、最終的には一人で生きていかなければならないから。

問九 線部⑦「自問自答の答え」とあるが、見つけた「答え」の具体例が述べられている段落の最初の五字を抜き出せ。

問十 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 議論することで視野は広がるが、答えを導くには自問自答しか方法はないのである。
イ 周囲に憧れられるような大人がいないせいで、子どもたちは夢を持っていないのである。
ウ じっくりと問題に向き合っていくと、いつかは解決策が見つかるものである。
エ 十代のころに何度も失敗を経験することで、「個」の成長が促されるのである。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

受験番号

この部分は、著作権の関係で
掲載できません。

受験番号

問一 I III を補うのに、最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。
ア ぱらぱらと イ ぽかんと ウ にやりと エ につこりと オ ぼつんと

問二 線部A「胸をなでおろした」B「バツの悪そうな」はどのような心情を表しているか。最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。
ア 満足 イ 戸惑い ウ 安心 エ 気まずさ

問三 線部①「それだ！」について、
(1)「それ」とはどのようなことか。本文中の語句を用いて、十五字以内で答えよ。

(2) (1) をすることによって何ができると赤尾は思いついたのか。十五字以内で答えよ。

問四 線部②「知らぬは担任ばかりなり、だったのかもしれない……」とあるが、この時の赤尾の心情を説明したものととして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 子どもたちはクラスメイトにあまり関心がないと思っていたが、非常によく理解していることに改めて感心している。
イ 担任でありながら、クラスの子どものことをしっかりと理解できていなかったことをとても情けなく思っている。
ウ 今まで感じていたクラスの生徒たちの印象が大きく変わり、今後どうつきあっていけばよいか不安を感じている。
エ 慎吾が学校に来られなくなったのは、担任である自分のせいだと生徒たちから教えられ、強く責任を感じている。

問五 線部a cの「……」について、慎吾のどのような様子を表していると考えられるか。最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。ただし、同じものは一度しか選べない。
ア 怒りから投げやりになっている。 イ 自信をなくし不安になっている。
ウ 喜びと悲しみが入り交じっている。 エ 嬉しさのあまり感極まっている。

問六 線部③「陰のある表情で、飲みかけのオレンジジュースが入ったグラスを見つめていた」とあるが、この時の慎吾の心情を説明したものととして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。
ア それまで仲が良いと思っていたが、悪口を言われたことでクラスメイトを信じられなくなり、怒りを感じている。
イ 普段は教師の前では良い子を演じていたが、本当の自分を見せることができないうちに、いらだちを感じている。
ウ いつもは明るくふるまっているが、クラスメイトからどう思われているかが気になって、暗い気持ちになっている。
エ 担任である赤尾が問題を解決してくれると思っていたが、自分の気持ちを理解してもらえず、諦めを感じている。

問七 線部④「そんな才能」とはどのような才能か。解答欄に合うように、四十字以内で答えよ。

才能。

問八 線部⑤「泣いたらいいのか。笑ったらいいのか。もう、慎吾には、よくわからなかった」とあるが、この時の慎吾の様子を説明したものととして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。
ア 三日ぶりに顔を合わせたクラスメイトに対して、どんな表情をするべきなのかわからず混乱している。
イ ばかにされて泣きたい気持ちもあるが、認められて嬉しい気持ちもあり、複雑な心境になっている。
ウ 自分が思い違いをしていたことが申し訳なく涙を流しそうになったが、笑ってごまかそうとしている。
エ クラスメイトそれぞれの自分に対する思いやりに触れて、感動で胸がいっぱいになっている。

問九 線部⑥「慎吾は大きく手を振った」とあるが、これは慎吾のどのような意志の表れか。慎吾の心情に触れて、四十字以内で説明せよ。

--

受験番号

三 比叡山の貧しい僧は、夢の中で「仏のよいお告げ」を授かるうとして鞍馬寺に参詣した。その百日目に夢の中で仏から「清水寺に参れ」と告げられた。清水寺に参詣して百日目の夜、「賀茂神社へ参ってお願ひせよ」と仏に告げられ、賀茂神社に参詣することにした。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)

また 賀茂に参る。夢見ん見んと参る程に、百日といふ夜の夢に、「わ僧がかく参る、いとほしければ、御幣紙、打撒の米ほどの物、たしかに取らせん」と仰せらるると見て、うち驚きたる心地、いと心憂く、哀れにかなし。「所々参り歩きつるに、ありありかく仰せらるるよ、打撒のかはりばかり賜はりて何にかはせん、我が山へ帰り登らんも、人目恥ずかし、賀茂川にや落ち入りなまし」など思へども、またさすがに身をもえ投げず。いかやうに計らはせ給ふべきにかと、ゆかしき方もあれば、もとの山の坊に帰りてゐたる程に、知りたる所より、「もの申しさぶらはん」といふ人あり。「誰ぞ」とて見れば、白き長櫃を担ひて縁に置きて帰りぬ。いとあやしく思ひて、使ひを尋ぬれど、大方なし。これをあけて見れば、白き米とよき紙とを一長櫃入れたり。「これは見し夢のままなりけり、さりとともこそ思ひつれ、これはかりをまことに賜ひたる」と、いと心憂く思へども、いかがはせんと、この米をよるづに使ふに、ただ同じ多さにて尽くる事なし。紙も同じごと使へど、失する事なくて、いと別にきらきらしからねど、いと頼もしき法師になりてぞありける。

- ※1 賀茂：賀茂神社 ※2 夢見ん見ん：夢に賀茂神社のお告げを見よう見よう ※3 わ僧：おまえ
- ※4 御幣紙・打撒きの米：神官が祝詞をあげたりする際に使用する御幣を作るのに使う紙と、参拝するときに神前にまく米
- ※5 うち驚きたる心地：はつと目が覚めた気持ち ※6 ありありて：あげくのはてに ※7 賜はりて：いただいて
- ※9 さすがに：そうはいうものの ※10 いかやうに計らはせ給ふべきにか：どのようにお取り計らいくださるうとするのか ※8 我が山：比叡山
- ※11 もの申しさぶらはん：もしもし。ごめんください ※12 長櫃：長方形で、ふたのある大きな入れ物 ※13 大方なし：まったく人の姿はない
- ※14 さりとともこそ思ひつれ：いくらなんでもこれだけではないだろうと思つたが ※15 いかがはせん：どうしようもない
- ※16 いと別にきらきらしからねど：きわだつて人目に立つというほどではないが

問一 線部①「いとほしければ」とは、「気の毒なので」という意味であるが、賀茂神社の神が「気の毒だ」と感じる理由は何か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 御幣紙や打撒の米をたくさん授かりたいとひたすら願っているから。
- イ 自分の努力で現実を打ち破ろうとせず神仏の力に頼っているから。
- ウ いくつもの神社を渡り歩き決まった神仏を信じ通すことができないから。
- エ 神仏のお告げを授かるうと思つてあちこちお参りしているから。

問二 線部②「いと心憂く、哀れにかなし」とは、「とてもつらく悲しい」という意味であるが、これは、比叡山の貧しい僧のどのようなことに対する気持ちか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 賀茂川に身を投げると告げられたこと。
- イ 数々の神社を巡るようにならされたこと。
- ウ 期待はずれの物を授かる夢だったこと。
- エ あきらめて比叡山へ帰る気にさせられたこと。

問三 線部③「打撒のかはりばかり賜はりて何にかはせん」の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 打撒の代わりのものを授かったので、これで生計をたてよう。
- イ 打撒の代わりのものだけを授かったとしても、何にもならないだろう。
- ウ 打撒の代わりのものを授かったからには、何でもできるだろう。
- エ 打撒の代わりのものを授かったので、これを何に使うことにしようか。

問四 線部④「ゆかしき方もあれば」とは、「知りたい気持ちもあるのだ」という意味であるが、どのようなことを「知りたい気持ち」があるというのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 鞍馬寺の恵み
- イ 比叡山の威力
- ウ 清水寺の願ひ
- エ 賀茂神社の効力

問五 線部⑤「これは見し夢のままなりけり」とあるが、現実には、何を授かったのか。文中から七字で抜き出せ。

- ア 線部⑥「さりとともこそ思ひつれ、こればかりをまことに賜ひたる」とあるが、ここから僧のどのような心情が読み取れるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。
- ア 神様がどのように取りはからつてくださるのかと関心をもっていたが、何もなくて驚いた。
- イ 夢でようやくものをくださると告げられ喜んだが、その量の少なさに失望した。
- ウ 夢で見た以上のものを授かるだろうと期待していたが、夢の通りだったので落胆した。
- エ 本当に授かるのかと疑いの気持ちが強かったが、本当に授かつて満足した。

問六 線部⑥「さりとともこそ思ひつれ、こればかりをまことに賜ひたる」とあるが、ここから僧のどのような心情が読み取れるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

問七 夢の中でお告げを授かった結果、比叡山の貧しい僧は結局どのような僧になったか。文中から十字以内で抜き出せ。

問八 この本文を通して、筆者が伝えたいことはどのようなことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア なほ心長く物詣ではすべきなり。
- イ 夢を頼るはむなしきものなり。
- ウ 何事もありがたくいただく心を忘れなよ。
- エ 何事も神仏にのみ頼ることなかれ。
